

沼津市明治
史料館通信

二〇一四年七月

通卷118号

- シリーズ沼津兵学校とその人材95
沼津病院の記念碑建立計画
- 江原素六とその周辺57
旗本稲葉家と江原素六
- 史料館からのお知らせ

沼津
兵学校
附属

沼津病院遺蹟

杉田六蔵書

シリーズ沼津兵学校とその人材 95 沼津病院の記念碑建立計画

沼津兵学校の輝かしい事蹟は、明治二七年（一八九四）出身者たちによって建設された記念碑によって長く後世に伝えられることとなった。創立七〇周年にあたる昭和一五年（一九四〇）には新たに址碑も建立され、さらなるモニュメントが加わった。

また兵学校とは別に、教育史上の独自の意義を顕彰すべく沼津兵学校附属小学校の記念碑が建立されたのは平成一〇年（一九九八）のことだった。

さらに沼津には沼津兵学校に密接に関連する機関がもうひとつあった。西洋医学にもとづく先進的な医療と医学教育を行った静岡藩立の沼津病院である。残念ながら現在のところ、沼津病院に関するモニュメントは存在しない。

ところが、実現しなかったものの、戦前、沼津病院の記念碑を建立するという計画があったのである。その推進者は、沼津兵学校創立七十年記念会を中心となった、旧幕臣の子孫で戦後も郷土史家として活躍した大野虎雄である。近年、大野家資料の中から、「沼津兵学校附属 沼津病院遺蹟 杉田六蔵書」と墨書された建碑用の原稿が発見され

たことから、計画の存在が確認された。揮毫者の杉田六蔵（一八七〇～一九四六）とは、沼津病院頭取（院長）杉田玄端の六男で、東京高等商業学校を卒業し常磐火災海上保険会社常務取締役・横浜火災海上保険株式会社取締役になった人物である。

なお、沼津病院は、当初「陸軍医局」として発足した時点では沼津兵学校の管下にあったといえるが、後に病院に改組してからは兵学校の管轄を離れたので、「沼津兵学校附属」というのは正確ではない。とはいえ、当時の研究水準からすればやむを得ないものである。

揮毫に関して杉田から大野に送られた書簡も十数通残されていた。それらによれば、大野が揮毫を依頼したのは昭和一六年（一九四一）である。一〇月二四日付の大野宛杉田書簡には、「碑面の文字を老生に揮毫せよとの御申越に接し其光栄ハ身に余る儀に候へ共元来の悪筆にて到底御用に立ち不申且つ其資格にも乏しきものと愚考候に付何卒平に御容赦被下度」とあり、一旦は断られた。しかし、同月三〇日付書簡では、「折角の御希望を無下にお断り申

上るも却て礼を失するやに被存且又老生の明治三年貴地に生誕したる古里の事にもありゆかり浅からずと思考致し候に付文字の拙劣を御厭ひなくバ御受け申上る外無之と存じ候」とされ、重ねての依頼を断りきれず承知したことがわかる。揮毫は翌年七月にできあがったようであり、東京在住の杉田が湯治のため伊豆を訪問した際に沼津に立ち寄り、大野に手渡したらしい。

杉田玄端は亡くなって久しく、その息子たちのうち、沼津で少年時代を送った武（一八五二～一九二〇）・雄（一八五八～一九〇六）・盛（一八六四～一九三四）らもすでに故人となっていた。そこで、唯一まだ健在だった、沼津生まれの末弟六蔵に題字を書いてもらうことを頼んだのであろう。六蔵は沼津兵学校創立七十年記念会にも招待者として参列しており、すでに大野は知遇を得ていたようだ。

大野は、「沼津兵学校址」碑の建立に続き、沼津病院の顕彰を目指したのである。昭和一四年（一九三九）刊行の著書は『沼津兵学校と其人材 附属小学校並沼津病院』であり、あえてサブ

タイトルを付けたことから、彼が沼津病院の顕彰を強く胸に秘めていたことがうかがえよう。

はたして大野は独力で建碑を実現するつもりだったのであろうか。石碑の建立場所は、当時まだ沼津病院時代の建物の一部（江戸薩摩藩邸の長屋を移築したという一棟）を保存していた沼津市西條町の駿東病院前だったと思われるが、藩立病院の後身である駿東病院や沼津の医師会、あるいは開業医たちがこの計画を積極的に援助するといった動きがあったかどうかはわからない。

結局、戦争の激化などの影響であるう、大野の希望はかなえられず、記念碑が建つことはなかった。昭和二〇年（一九四五）七月には、空襲により駿東病院は焼失してしまった。そして、石材業者に渡されるはずだった杉田の揮毫は、大野宅で永い眠りについたのである。

どの時代の人々にとっても医療は身近で不可欠なものである。明治初年の沼津に、全国的にも稀有な近代的医療機関が誕生したことは、歴史の中にしっかりと位置づけられるべきである。今こそ、この七〇年前の揮毫を活用して、かつて大野が夢見た沼津病院記念碑の建立を実現したいものである。

（樋口雄彦）

旗本稲葉家と江原素六

江原素六の親類の一軒に、幕府の旗

本だった稲葉家があった。素六の妹満

寿子(ます、一九二七年没)の夫となつ

た稲葉千波(一九一六年二月一日八

七四歳で没、如説院殿行道日光居士)

が、長崎奉行をつとめた稲葉出羽守正

申の次男だったのである。満寿子が嫁

いだのは慶応二年(一八六六)二三歳

の時だったというので、素六にとって

は二歳年下の妹であった。また、後年、

素六の三男三郎は、叔母夫婦の養子と

なり稲葉家を継ぐことになり、江原・

稲葉両家はより強く結び付いた。

そもそも稲葉家は、常陸国真壁郡で

五〇〇石を領し、正之(長右衛門)――

正房(出雲守)――正勝(八左衛門)――

正武(出羽守)――正朝(主税・来応)

――正申(清次郎・出羽守)と続いた家である。春日局が生んだ子を祖とする大名稲葉家の分家筋にあたる。正申は書院番・小納戸・目付海防掛などを歴任し、嘉永元年(一八四八)五月に長崎奉行に就任した。しかし、赴任から間もなく同地にて病没しており、菩提寺(東京都江東区・雲光院)に残る墓石には「嘉永元戊申歳九月廿七日在長崎西御役所卒于行年五十五 六代目稲葉出羽守越智正申君之墓」と彫られている。正申の跡は長男清次郎(一八六四年時点で四〇歳)、すなわち千波の兄が家督を継いだ。清次郎は小姓組・小十人頭・先手弓頭などをつとめ、長州征討のため大坂に出陣したこともあった。

文久二年(一八六二)三月には昌平黌の初稽古に参加したといった断片的な履歴が判明している。戊辰時には小筒組差図役頭取として陸軍士官となつていたため、沼津兵学校の暫定生徒に編入され、後に資養生試験に及第したらしい。沼津市・乗運寺の過去帳に、明治三年八月一日「稲葉錠治郎弟十才玉誉選光童子」、同日「同人妹十五才円誉妙鏡童女」といった記載があることから、家族とともに沼津に移住していたらしい。しかし、錠次郎は沼津兵学校の廃校まで在学していたのかどうかも含め、その後の足跡は全く不明であり、東京の菩提寺にも何ら記録は残されていない。

錠次郎にとつて千波は叔父にあたるわけだが、兵学校への進学は江原素六との姻戚関係が影響したものであろうか。千波は維新後、「家に従つて」江戸から藤枝に移住した後、沼津に転居したというので、当初、当主である甥(あるいは清次郎が生存していれば兄)と同

居していたのかもしれない。慢性の胃病をかかえていた千波は、仕官や商売をすることもなく、義兄素六が住む沼津在の金岡村に茶園を所有し、家計を維持していたという。

消息不明となつた稲葉錠次郎とその子孫に対し、分家である千波の跡は、三郎(三井物産シンガポール支店長・三井倉庫専務・太平製糖社長など)、三郎の子素一、その弟興作(石川島播磨重工業株式会社社長・日本商工会議所会頭)と続いた。

〔参考文献〕『江原素六先生伝』、『新訂寛政重修諸家譜』第十、『柳営補任』、『旗本家百科事典』第一巻、『江戸幕臣人名事典』第一巻、『近世庶民生活史料藤岡屋日記』第九巻、『昌平坂学問所日記』Ⅲ

(樋口雄彦)



稲葉三郎 (当館蔵)

七代目清次郎の没年は不明であるが、八代目を継いだと思われる稲葉錠次郎は、実は沼津兵学校の第五期資養生になつている。万延元年(一八六〇)九月二一日、「小十人頭清次郎惣領」として將軍に初御目見を許され、「銀馬代」を下されたほか、

文久二年(一八六二)三月には昌平黌の初稽古に参加したといった断片的な履歴が判明している。戊辰時には小筒組差図役頭取として陸軍士官となつていたため、沼津兵学校の暫定生徒に編入され、後に資養生試験に及第したらしい。沼津市・乗運寺の過去帳に、明治三年八月一日「稲葉錠治郎弟十才玉誉選光童子」、同日「同人妹十五才円誉妙鏡童女」といった記載があることから、家族とともに沼津に移住していたらしい。しかし、錠次郎は沼津兵学校の廃校まで在学していたのかどうかも含め、その後の足跡は全く不明であり、東京の菩提寺にも何ら記録は残されていない。



稲葉出羽守正申の墓石 (東京都江東区・雲光院)

史料館からのお知らせ

平成26年度 第1回企画展

「昔むかしのボク・わたし～近代沼津子ども事情～」

開催中 期間7月1日(火)～9月28日(日)

企画展ギャラリートーク

8月2日(土)・8月30日(土)

いずれも14:00～40分程度

学芸員による展示解説です。

観覧料はかかりますが、参加は無料、申込不要です。

企画展関連イベント

「駿河風」をつくろう

日時：8月1日(金)

9:00～12:00

対象：小学4～6年生

定員：20名 参加料：20円(保険料等)

申込：7月23日(水)9:00より

電話にて受付(先着順)

夏のイベント申込受付中

申込みはいずれも7月23日(水)9:00より電話にて受付(先着順)

高校生のための一日学芸員体験講座

当館学芸員による講義と館内施設や展示の見学、資料を使った実技を行います。動きやすい服装で。



日時：8月7日(水)

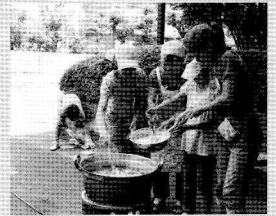
10:00～15:00

対象：市内に在住もしくは通学する高校生

定員：10名 参加料：無料

戦時中のくらしを体験しよう

戦時中の話を体験者から聞き、「すいとん」をつくって食べます。近隣の戦争史跡の見学もします。



日時：8月6日(水)

10:00～15:00

対象：小学4～6年生定員：30名

参加料：20円(保険料等)

詳しくは
明治史料館へ
お問い合わせ
ください。

沼津市明治史料館通信

第118号

平成26年7月25日

編集・発行 沼津市明治史料館
〒410-0051 沼津市西熊堂372-1

TEL055-923-3335

FAX055-925-3018

印刷

みどり美術印刷株式会社

平和を考える戦争史跡めぐり

マイクロバスで市内の戦争史跡をまわり見学します。

日時：8月8日(金)・8月10日(日)

9:00～16:00

対象：市内の小学生・中学生とその保護者

定員：いずれも23名

参加料：一人20円(保険料等)

当日キャンセルの場合も

参加料はいただきます。



lcl KIDS ART PROJECT SHIZUOKA
キッズアートプロジェクトしずおか

キッズアートプロジェクトしずおか
ミュージアムパスポート2014
スタンプは受付で押します

